

第5期雄武町総合計画 前期実施計画書 兼 事務事業事後評価調査

No. 0502008

政策目標	2 めくもり・雄武～保健・医療・福祉の充実～	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載 雄武町高齢者等入浴優待事業実施要綱
基本施策	7 高齢者支援の充実	事業優先度	B	
単位施策	2 生活支援の充実	政策事務分類	1 単独自治事務(例規)	
事業名	高齢者等入浴優待事業	見直し年度		
事業期間	平成20年度～平成24年度	担当課	5 保健福祉課	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	交付対象人数		#N/A	
事業目標	全対象者への入浴優待料金助成	ハード/ソフト 事業区分	2 ソフト事業	
住民参加	2	関係例規・法令名	1 ⇒	
住民協働		関係個別計画名	1 高齢者保健福祉計画	

全体計画 事業内容		平成 20 年度 事業内容	平成 21 年度 事業内容	平成 22 年度 事業内容	平成 23 年度 事業内容	平成 24 年度 事業内容
計 画 内 容	○高齢者等入浴優待券交付 対象者 (1)70歳以上の高齢者 (2)身体障害者1.2級、療育手帳A,精神障害者1級 ○交付枚数 年 12枚	高齢者等入浴優待券交付	高齢者等入浴優待券交付	高齢者等入浴優待券交付	高齢者等入浴優待券交付	高齢者等入浴優待券交付
	事業費(千円)	10,500	2,100	2,100	2,100	2,100
計 画 事 業 費	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	800				800
	一般財源	9,700	2,100	2,100	2,100	1,300
実 績 事 業 費	事業費(千円)	10,465	2,192	2,122	2,103	2,045
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	5,137	802	945	1,151	1,149
一般財源	5,328	1,390	1,177	952	896	
関 連 事 項	(特定財源の詳細等) 後期高齢者広域連合特別 対策補助金 【評価・実績】	(実施内容等) 高齢者等入浴優待券交付 ・70歳以上の高齢者 ・身体障害者1・2級、療育手帳A 精神障害者1級 4,871枚×450円 (743名) ※前年度評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) 高齢者等入浴優待券交付 ・70歳以上の高齢者 ・身体障害者1・2級、療育手帳A 精神障害者1級 4,630枚×450円 (723名) ※前年度評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) 高齢者等入浴優待券交付 ・70歳以上の高齢者 ・身体障害者1・2級、療育手帳A 精神障害者1級 4,589枚×450円 (721名) ※前年度評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) 高齢者等入浴優待券交付 ・70歳以上の高齢者 ・身体障害者1・2級、療育手帳A 精神障害者1級 4,446枚×450円 (704名) ※前年度評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) 高齢者等入浴優待券交付 ・70歳以上の高齢者 ・身体障害者1・2級、療育手帳A 精神障害者1級 4,363枚×450円 (714名) ※前年度評価結果 A-継続/現状維持
	第4期総合計画関連 (継続有り)	年度目標値	770人	770人	全対象者への入浴優待料金助成	全対象者への入浴優待料金助成
	年度達成率	104%	101%	100%	97%	95%
	全体達成率	21%	41%	61%	81%	100%

事業名	高齢者等入浴優待事業	評価者 管理職 職氏名	保健福祉課長	山崎佳之
		評価者 作成者 職氏名	社会福祉係長	磯田昭次

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	高齢者等	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	入浴優待券の交付人数及び利用率								
【抱える課題やニーズは】	高齢者等が健康で生きがいのある生活が送れるよう、各種福祉サービスの充実など総合的な支援が求められている。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値								
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	高齢者等における健康の増進と生きがいの充実を図った。	① 実績人数	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>平成24年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>714名</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>714名</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>100.0%</td></tr> </table>	目標年度	平成24年度	目標値	714名	実績値	714名	達成度	100.0%
目標年度	平成24年度										
目標値	714名										
実績値	714名										
達成度	100.0%										
【その結果、どのような成果を実現したか】 ※成果=目的	温泉施設を利用することで、高齢者等の健康保持と健康増進を図る。	② 利用された優待券の枚数 ÷ 交付した優待券の枚数 = 優待券の利用率	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>平成24年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>8568枚</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>4363枚</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>50.9%</td></tr> </table>	目標年度	平成24年度	目標値	8568枚	実績値	4363枚	達成度	50.9%
目標年度	平成24年度										
目標値	8568枚										
実績値	4363枚										
達成度	50.9%										
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	入浴優待券の交付	対象者からの申請に基づき審査を行い、ホテル日の出岬で利用できる入浴優待券を交付した。									
	入浴優待料金の支払い	優待券利用分の入浴料金をホテル日の出岬へ支払った。									
	温泉入浴無料送迎バスの運行	毎月2回、福祉バスを使用し、ホテル日の出岬への温泉入浴無料送迎バスを運行した。									

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	温泉入浴は健康増進や疲労回復の効果が有り、当該事業による町の支援は必要性が高い。
必要/概ね必要/課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	当該事業を実施することで、高齢者等の健康増進や疲労回復、生きがいの充実が図られた。
有効/概ね有効/課題あり	<input type="checkbox"/>	達成
	<input checked="" type="checkbox"/>	ほぼ達成
	<input type="checkbox"/>	下回る

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	前年度の申請者については、予め申請書を作成しておくことで、申請書を記載する時間と待ち時間が短縮できた。今後も事務処理の工夫をしながら経費節減に努めている。
	<input type="checkbox"/>	事業費抑制
	<input type="checkbox"/>	人員削減
効率的/概ね効率的/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減
	<input type="checkbox"/>	その他

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	必要な条件を具備していれば、全ての申請者に交付されることから公平である。
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他

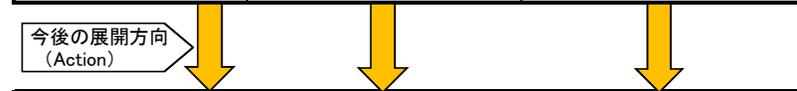
■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--

■総合評価【A~D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当
- B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要
- C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要
- D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
温泉入浴を楽しみにしている高齢者等にとって健康増進と生きがい充実の観点からも必要性が高く、高齢者等の生活と福祉の向上を図るものとして適当である。		



継続/現状維持		
健康増進及び生きがい充実を図るため、町の支援は必要であり、高齢者福祉及び障がい者福祉向上のため、継続して行う必要があることから、現状維持が適当である。		

※展開方向の区分